

家庭のニーズに合わせて
コミュニケーション支援を
具体的に進めていくための
iPad活用

香川県立高松養護学校

3つの実践を発表します

連絡帳としての活用を継続して行った事例

事例1 家族間で情報を共有するための連絡帳

事例2 多忙な保護者とも気軽に情報共有する連絡帳

選択コミュニケーションの練習をした事例

事例3 選択コミュニケーションを

「iPadに教わるように」練習した家庭の事例

連絡帳としての活用を
継続することで見えてきたこと

事例 1

家族間の情報共有で
子どもを取り巻く支援の向上
につながった事例

事例1 家族間で情報を共有するために

今までの連絡帳の問題点

- ・ 文章では、児童の様子が伝わりにくい
- ・ 保護者と担任だけのやりとりになりがち
- ・ 家庭で、授業のことが話題になることが少ない



iPadで写真や動画を撮り連絡帳のように持ち帰る

結果

- 画面を見ての話題共有
- デイサービス担当者とも情報共有
- 家庭において学校の話が増加
- 児童が自分から写真の自分の様子を見てほしいという表情を見せるようになった

そうそう
今日はこんなことしたんだよ。
お母さん、すごいでしょ!!



保護者からのエピソード

- ・ 複数の人に手軽に提示（画面が大きいから）
- ・ 動画による分かりやすさ
- ・ 子どもの能力の正しい評価
- ・ 保護者の意欲の増加
- ・ 家族と学校の相互のやりとりの推進

「子どもを取り巻く支援」を高めることができた

事例2

気軽な情報共有で
児童理解のヒントを得た事例

事例2 気軽に情報共有するために

今までの連絡帳の問題点

- ・異なる書式の連絡帳による煩雑さ
- ・多忙な保護者にとっての負担感
- ・子どもの生活の様子が共有されにくい



クローズ設定したSNSを用いた情報共有の提案

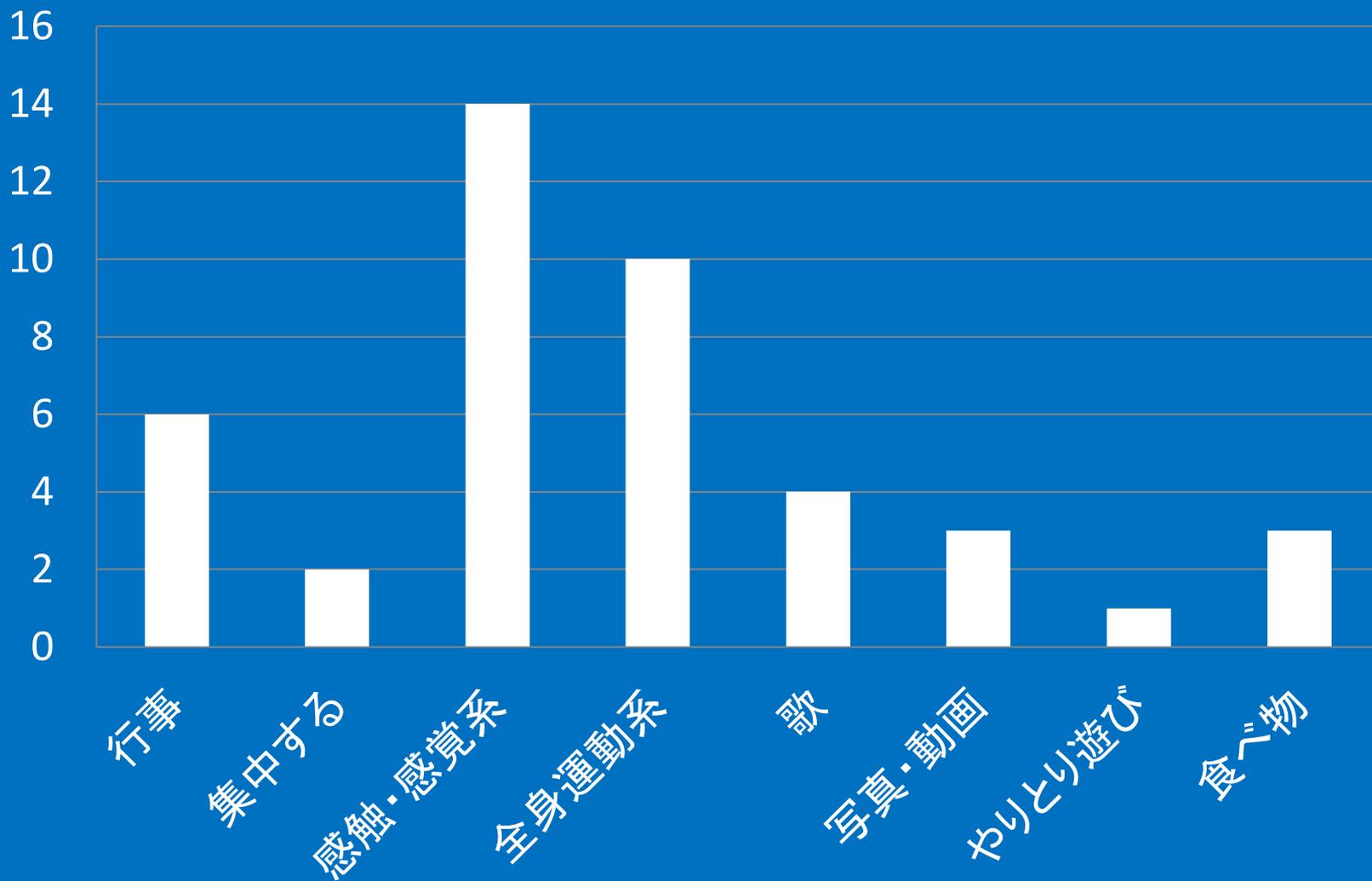
結果

- ・ 保護者の意欲の増加
- ・ 情報のやりとりの増加

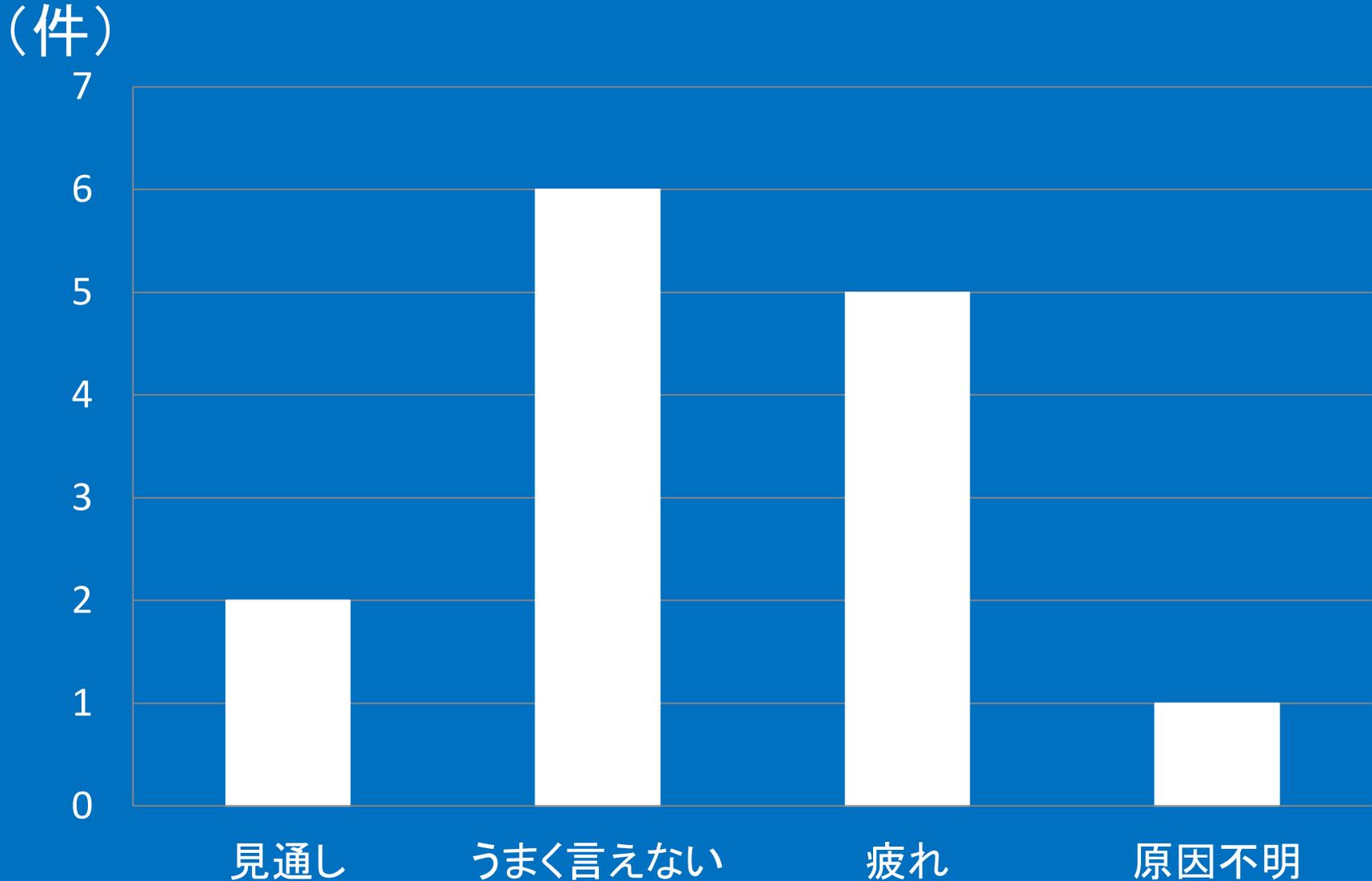


楽しそうなエピソードの件数

(件)



つらそうなエピソードの件数



このような結果に至った要因

- ・ 写真つきなので見ていて楽しい
- ・ 投稿すると返事が返ってくることへの期待
- ・ 家庭、学校、事業所でのおなじ悩みを共有できた

バラバラだったエピソードをつないでみることで
子どもの理解を進めることにつながった

事例 3

家庭で、保護者とA児が
選択コミュニケーションの練習
をするためにiPadを使った事例

なぜ選択の練習なのか

A児とのコミュニケーションに悩む保護者

- ・ いくつかの取り組みの成果は？
- ・ 必要以上に保護者が苦勞する意味は？
- ・ 本質的な解決はどのように？

そのようなことで悩んでいた時に・・・

選択の練習をしてみたら

思いがけないたくさんの変化！

- ・ 保護者とA児の「コミュニケーション」の変化
- ・ 保護者の「A児の評価」の変化
- ・ A児が落ち着いて過ごす時間の増加

選択の練習をするときにiPadの出番があった

A児の実態（発信・受信）

発信

- ・「あ、ば、だ」は言える
- ・叫んだり泣いたりして訴える
- ・人から聞かれると「あ」と言ってしまう

受信

- ・一語文程度の理解が可能
- ・聴覚が優位



家庭でのコミュニケーションの実態

保護者の実態

- ・ たくさんの言葉で聞いてしまう
- ・ 母親の深読み、先読み
- ・ 対応が分からない

A児の実態

- ・ 泣いたり叫んだりしてしまう

コミュニケーションの目標

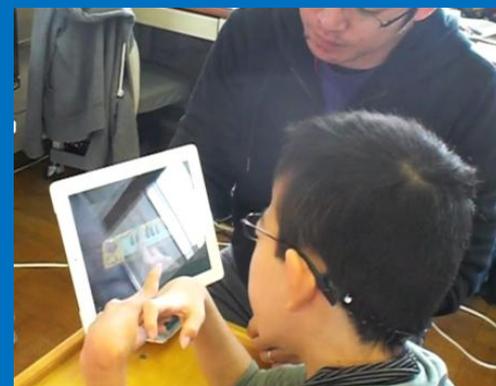
- 主体的に意思を伝える環境を
- 選択する方法を適切なものに
- 本人／支援者ともに分かりやすい環境

A児にとってのポイントを整理

- ・ 選択場面の設定
- ・ わかりやすい単語を用いて
- ・ 選択肢を提示して待つ
- ・ 実物を見せながら音と併用
- ・ 伝わらなければ、新しい選択肢を・・・
- ・ 支援者は深読みしないで

以上のポイントをおさえて

音声に映像をつけた「ショートムービー」を作成
順番に再生するだけで



iPadショートムービーの構成

- ① 動画の始めに、何が写っているのか分かりやすく
- ② 動画の始めに「その名前」をわかりやすい単語で
- ③ 動画の後半に、そのおもちゃの「音」を実際に鳴らす
例)おもちゃの音、ドアの音、水筒を開ける音など
- ④ 選択する場所に応じて動画を整理する

iPadに教わるように練習

手順

- ・ 発信したら「iPadで選ぶ？」と聞く
- ・ 順に一つずつ動画を見せる
- ・ A児の発信に応じて
- ・ 3回繰り返しても返事がなければ、
違う動画を

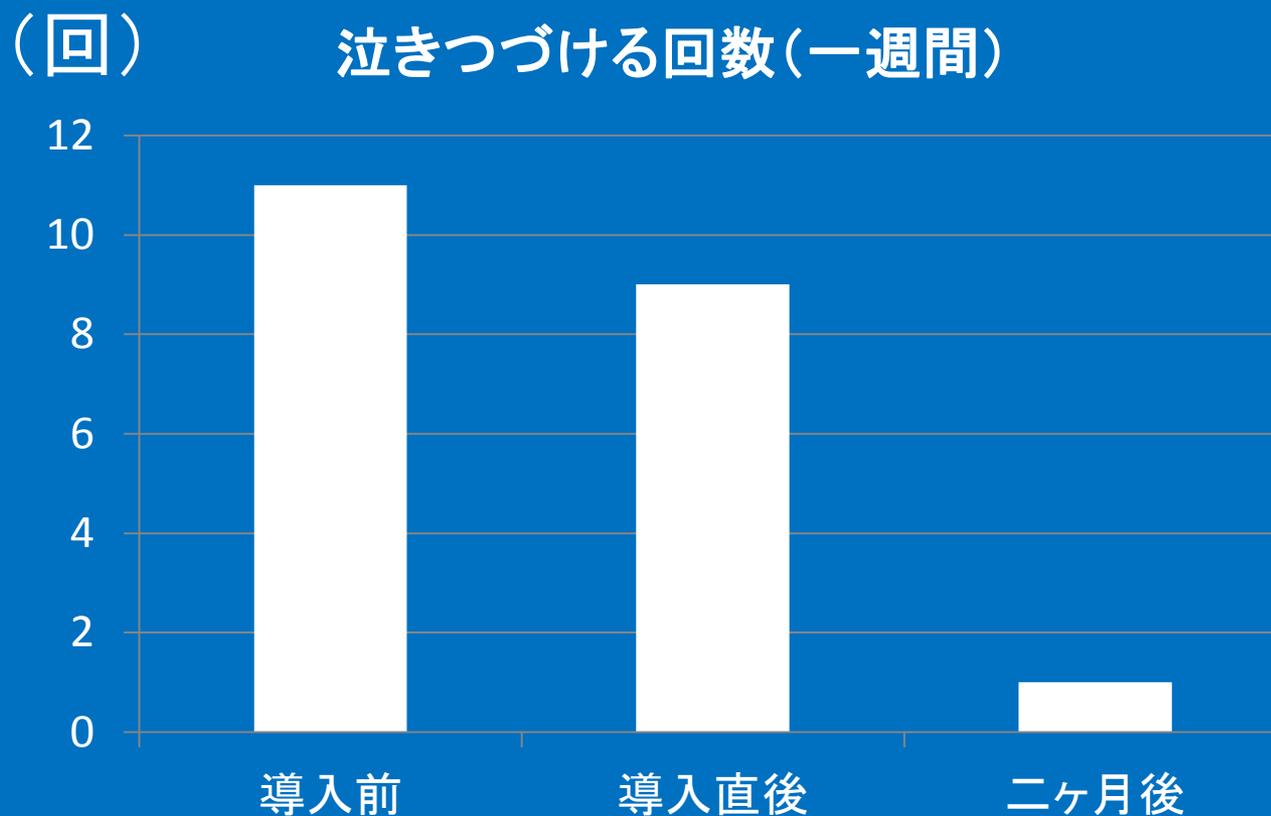


結果

- ・ 聞いて理解して、声を出すという変化
- ・ iPadの必要性への気付き
- ・ 選択できる場所の増加
- ・ 「泣いて訴えること」の減少

「泣きつづける回数」

- 「分かる環境づくり」と、「選択方法の工夫」の結果



支援者にとっても

- ・ 容易な選択肢の追加
- ・ 児童の生活実態の情報源として

支援者にとっても情報源

- ・ 35場面にカテゴリ分け、のべ300動画近く

カテゴリの例

学校 休み時間

学校 予定

朝起きたら(寝室)

出かける前

外出先(スーパー、郵便局など)

買い物(そうざい選び)

出かけた後

就寝前

待ち時間

音楽/DVD



iPadの導入効果

- 「めくって、再生するだけ」という簡潔な手順の提供
- 支援者の問いかけに答える方法から、
児童の発声を支援者が待つという方法に変わった
- 呼ぶことの「必要性」と「その後の見通し」
- 選択肢の増加による「返事しない」というやりとり
- あたらしい言葉の習得

これらの3つの指導事例

家庭のニーズに合わせた
情報共有のかたちを工夫し
個別の支援を具体的に進めた

今後の課題

- ・ 情報共有のルールの明確化
- ・ 人権への配慮
- ・ 必要な情報と不必要な情報の選別
- ・ 不平等感の解消

家庭のニーズに合わせた情報共有



いろいろな場所での
情報を共有したい



どんな支援が良いか
教えて欲しい



家族で情報を
共有したい



情報を共有・蓄積し、支援につなげていくことへの可能性